

あすなろの木

光明中(だより) 編集者: 校長 上田 薫 No. 13号 平成30年10月15日

2018体育大会

感動を起こした! 奇跡を起こした!

【最後までやれた!】

大会当日まで、何度天気予報を見たことでしょうか。台風25号の接近、それによる秋雨前線の影響、場合によっては大会を延期することも考えました。前日になって、予報は「くもり」、降水確率もそれまでに比べ低くなっていました。そして当日午前7時、「よし、やれる! もう何の心配もしていませんでした。しかし・・・開会式が無事終わり、さあ競技開始という時になって、まさかの強い雨。この雨で市内の他の中学校では、中止せざるを得ない事態になっていました。何とかここは切り抜け、プログラムが進み始めた、とその時に2回目の中断。雨雲レーダーを見ると、雲が切れるまで約30分～40分かかる予想、この雨でグラウンドにいくつも水たまりができ、最悪の状況となってしまいました。

約20分が過ぎたあたりからようやく雨が降り止まりました。グラウンドを復活させる! 何としても再開させる! この意気込みを持っていたのは、私たち教員だけではなく、選手たちも、君たちみんなが、そう思ってくれていたのです。

運動部の外競技(サッカー、野球、ソフトテニス)の男女が、バケツ、一輪車、大小のコーンを手に、一心不乱(いっしんふらん)に土を運い入れてくれました。自分の身長ほどのコーンに土を入れて、運んでくれました。必死の顔がそこにありました。また、あるだけのスポンジでまた水を吸っている人がいました。手も足も泥水で汚れていました。ただ、その真剣な姿はどれも輝いていました。気がつけば、引退したはずの3年生もいました。担当活動以外の人もかわっていました。思わず動いてくれたのでしよう。そんなすごい力が一つになってグラウンドがだんだんと修復していききました。中断から45分後、見事に競技を再開し、そのまま閉会式まで突き進めたのです。見事な取組でした。来賓の方から、「すごい子どもたちですね。」「まさにこれぞ中学生という動きでしたね!」と絶賛の言葉をいただきました。胸がどても熱くなりました。

すこし、心配をしましたが、最後は最高のお天気をいただきました。「お天候録、最後までやらせてください、ありがとうございます!」



【一致団結(競技・応援・運営について)】

第1番目のプログラム100M走から最後の色別対抗リレーまで、全競技において一生懸命に走り、跳び、踊り、引っ張り、もう身体全部、心全部を使って競技する姿を見ました。今年は、昨年度に比べ新たな取組をたくさん入れました。

先ずは、開会式での行進の復活でした。君たちが、「意気揚々(いきようよう)元気、はつらつとして物事を行うさま」と行進することで、今の君たちが輝いている姿を、「自分たち自身で感じ取って欲しい」、その姿を保護者や地域の方々など「たくさんの人に見てもらいたい」と考え、取り組みました。そして、君たちはその期待通り、胸をはり、整然とした行進を披露してくれました。私は朝礼台の一番いいところから、その一部始終を見ることができました。特に最後の全校生徒が横一列に並んで前進してきた時は、興奮して鳥肌が立っていました。やって良かった! そう思いました。

また、競技や応援、得点のつけ方など、あらゆる面で「色別のチーム(1年生から3年生が一つになる)」として取り組む、すなわち、3年生がリーダーとなり、1・2年生を引っ張っていくチームを作り上げることを求めました。

プログラムも、これまでの「色別対抗リレー」だけではなく、「色別対抗種目」を新たに作りました。「大縄跳び」「台風の目」「因幡の背渡り(いなばのせわたりの)3種目」です。どの種目でも、1年生から3年生がホントに一つにしっかりとまとまり、競技していました。見ていて、とても味わいがあり、微笑ましかったです!



また「綱引き」も色別のチーム同士の戦いをふんだんに取り入れられました。予行練習での予選からすさまじい勝負が相次ぎました。特に本番の決勝戦は、一本目から2分を超えるまでに力と力のぶつかり合っていた。本当の威力を尽くした(しりよ)くをつくす: ありったけの力をだす) 試合でした。このように、全ての対戦(予選からの四色全ての戦い)で見せた君たちの団結力は、「素晴らしい」に尽きる様子でした。

3年生のダンス、とても楽しみにしていました。9月に入り、体育館からだけではなく、放課後は校長室の上の方から、3年生の元気な声が聞こえてきました。本番に向けて猛特訓をしてきた成果がしっかりと発揮されていました。どのクラスもよく仕上げました。中には、それはキレのある動きで踊っている人も見られたね。ワウフル!

午前中の個人種目、抜きつ抜かれつのリレーなど、全ての競技において、とても見応え(みごたえ)のある好勝負を繰りひろげてくれました。君たちが、「心の底から競技を楽しんでる」ことを実感できました。

係りの仕事も完璧でした。どの先生方も、君たちの誠実で責任感に満ちあふれた仕事を褒め、感心していました。手際よくこなしていました。放送担当者の臨場感(りんじょうかん)溢(あふ)れるアナウンスは、競技の白熱した雰囲気を一層盛り上げてくれました。お見事でした!

そして「応援」、応援リーダーを中心に各色に応援する人たちが色旗や等級旗をもって、競技する人の隣をトラックに沿って何度も走り回る姿、あるいはテント前で声からして応援する姿など、体育大会ならではの素晴らしい光景でした。クラスの仲間へはもちろん、学年を超えた応援は、大きな大きな勇気を生み出すパワーになったことでしょうか。

この大会、何度も目にした光景、それが「円陣」でした。その姿は、予行練習から見られました。そして、本番。プログラムが進むにつれて、円陣風景が増え、特に午後からの色別対抗団体種目では、もうプログラムごとに、どの色でも角を組み、チーム全員の腹の底からの声か響いていました。

3年生が角を組みながら、「はやくおいで!」と2年生・1年生を手招きします。すると、下級生が、それはどてもうれしそう顔をして小走りにその円に加わっていききました。見ていてうれしくて、本当にすばらしい光景でした。

一致団結(いっちだんけつ: 多くの人が一つの目的のためにまとまること。)すればこんなにも大きなことを成し遂げられるのです。このような姿や雰囲気を創り出すたくて、「縦割りによる色別対抗種目」を取り入れ、その中心を「3年生生徒に託す」企画を練(ね)りました。君たちはその期待に見事にこたえてくれました。実現しました。これからの光明中学校を動かしていく「伝統の力」の基盤をこしらえてくれました。よくやった!!

【感謝、来賓・地域・保護者の皆様へ】

たくさんのご来賓や地域・保護者の方々のご来校くださり、子どもたちにご声援をくださいました。上述しました通り、降りしきる雨で中断を余儀なくされ、皆様方も雨に濡れながらの観戦になってしまいました。ただ、そんな状況にありながら、最後まで熱心なご声援をいただきましたことに対し、心から感謝申し上げます。

主役である子どもたちが輝いてくればと、新たな企画も取り入れプログラムした今年度の体育大会でした。その期待に応えるべく子どもたちがどても意欲的に取り組んでくれました。「大きな成果が得られた」と感じています。

引き続き、子どもたちの成長に向け取り組んでまいります。一層のご支援・ご声援をよろしく願っています。誠にありがとうございました。

